

## 27F-pm08

### 自己健康測定を活かした薬剤師によるセルフメディケーション支援の可能性の検討

○中尾 祐輝<sup>1</sup>, 阿部 真也<sup>2</sup>, 橋本 義人<sup>2</sup>, 吉町 昌子<sup>2</sup>, 後藤 輝明<sup>2</sup> (<sup>1</sup>株式会社ツルハ北大前調剤薬局, <sup>2</sup>株式会社ツルハ調剤運営本部)

【目的】生活者自らのセルフメディケーションの実施が求められる中で、これまで医療機関でしか実施できなかった、13項目の血液測定（以下13項目測定）やその他様々な健康測定をドラッグストアで実施することが可能となった。そこで、ドラッグストアを利用されるお客様に、13項目測定を含めた様々な健康測定を体験していただき、セルフメディケーションの拡大に健康測定が活かせるかを検討した。

【方法】岩見沢市にあるツルハドラッグ大和店を利用されるお客様を対象にして、自己健康測定を行った。（2016年1月から3月）自己採血による13項目測定、体組成計、骨量測定、重心動揺計、立ち上がり測定、血圧計、BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）と既往歴に関するアンケート調査を行った。

【結果】全参加者は382名で、参加者の平均年齢は、61.1歳であった。13項目測定では、適正值よりも高値となる方の割合が高かったのはLDLと尿酸値であった。体組成計や骨量測定では、3分の1以上の方に異常値が見られた。異常値が表れやすい性別は男性で、年齢は40歳以上であった。質問票では、摂取エネルギー量は平均的に少ないが、極端に多い方が見られた。また、ナトリウム摂取量は、年齢に比例して増えるが、カリウム摂取量はほぼ変わらないとの結果であった。

【考察】今回の健康測定の結果では、要検査や正常値外の値を検出した際に、受診勧奨を行ったが、それだけではセルフメディケーションにつながらないと考えられる。また、健康測定の検査項目は、生活習慣にかかわるものを主に設定している。そのため、健康測定を用い、生活習慣の改善を薬剤師が支援することで、利用者自らが行動変容を起こすことができれば、セルフメディケーションの実践と、健康寿命の延長に寄与できると考える。